

◇編集後記◇

この3月をもって編集委員を退任することになりました。9年間JOHの成長期に編集業務に参加できたことを感謝しております。圓藤陽子先生、武林亭先生、本橋豊先生、甲田茂樹先生、西條清史先生、錦戸典子先生、保利一先生、森田学先生、八幡勝也先生も、今回ご退任なさいます。2期6年間にわたる御尽力に深く感謝申し上げます。

4月以降の新編集委員会ですが、1期前に副編集委員長をお務めになっていた川上憲人先生を編集委員長として、国内の編集委員はさらに10人増員して40人体制となります。川上先生のリーダーシップの下、充実した編集委員会活動が行われることを期待いたしております。

JOHは、1996年に年間4号でスタートしましたが、2000年以降は年間6号となりページ数も年々増加して最近では500ページを超えています。歴代の編集委員会のご努力が実り2003年にJOHがIndecus Medicus/Medlineに収載されましたが、その効果は投稿数の増加に如実に表れており、昨年1年間の投稿数については200編の大台に乗って217編となりました。この6年間に投稿数は約2倍に増加しています。

JOHが、ホームページおよびJ-STAGEを介してPDFファイルを無料でダウンロード可能にしていることは世界への情報発信という点で大いに評価できると思います。近々in pressの論文の早期公開も開始する予定ですのでご活用いただきたいと思います。

昨年1年間の分野別投稿数をみますと、メンタルヘルス関連が17.5%と断然多いですが、統計・疫学9.0%、物理的要因8.0%、有機溶剤・有機化合物6.2%、健康

管理・健康教育6.2%、以下、呼吸器疾患、皮膚・アレルギー、遺伝子損傷・発がん、筋骨格系、疲労・労働生理産業看護、金属、神経系などの分野が続いており、様々な分野からバランス良く投稿されていることがわかりました。

3年前に編集委員会の課題として3点あげました。1点目の電子投稿については、1年前に実現しまして、現在はほぼ100%電子投稿になり査読・編集活動が迅速かつ円滑に行われるようになりました。2点目は内容の充実とアジアからの情報発信でした。編集委員および学会員の皆様のご努力が実りImpact Factorが2006年に1.8と上昇したのは大変喜ばしいことと思います。内容の充実のためには質の高い査読が不可欠です。今後も引き続き学会をあげてのご支援をよろしくお願いいたします。昨年1年間の掲載論文71編のうち日本43編、日本以外のアジア各国21編であり、アジアからの情報発信という使命はある程度果たしていると思いますが、今後も引き続き質の高い論文の御投稿をよろしくお願いいたします。3点目の和文誌の充実につきましては3年間ほとんど手つかずで終わってしまいました。この課題は次期編集委員会に託したいと思います。昨年頸肩腕障害の定義、診断基準等につきまして頸肩腕障害研究会から提案文書の御投稿をいただきましたが、今後もこのような各研究会からの活発なご寄稿をよろしくお願いいたします。

最後に重ねて学会員の皆様のこの3年間のご支援・ご協力に深く感謝申し上げます。今後も引き続き編集委員会へのご協力をよろしくお願いいたします。

(竹下達也)

「産業衛生学雑誌」編集委員会

委員長：竹下達也（和歌山医大）

副委員長：圓藤陽子（東京労災病院）、武林亭（慶應大）、堤明純（産業医大）、

本橋豊（秋田大）、森満（札幌医大）

荒木田美香子（大阪大）、有澤孝吉（徳島大）、市場正良（佐賀大）、掛本知里（東京女子医大）、上島通浩（名古屋大）、車谷典男（奈良医大）、甲田茂樹（独法労働安全衛生総研）、河野公一（大阪医大）、西條清史（金沢大）、榊原久孝（名古屋大）、澤田晋一（独法労働安全衛生総研）、塩飽邦憲（島根大）、笠島茂（国立保健医療科学院）、埜田和史（滋賀医大）、谷川武（筑波大）、錦戸典子（東海大）、橋本英樹（東京大）、濱田篤郎（海外勤務健康管理センター）、保利一（産業医大）、森河裕子（金沢医大）、森田学（北海道大）、森本泰夫（産業医大）、八幡勝也（産業医大）、若林一郎（兵庫医大）

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目29番地8 公衆衛生ビル4階

電話 03-3356-1536 ファックス 03-5362-3746 振替 東京 00100-7-133495 番